

SIMPLER AND EASIER

新しい競技規則によるラグビーシーズンが8月から始まります。

experimental 試験的というのは、大きい改正のときに通例的につける言葉で、試してみて具合悪ければ止めるといったものではありません。試行期間1年をおいてという意味です。数年来の意見が集約され、2年前にIRBが改正することを検討していることを宣言し、世界の各地で実験的なLocal ruleによるゲームが行われてきました。最近のSuper14のゲームでの展開のspeedとsimple差は新しい競技規則対応への示唆が見られます。

プレーヤーのみなさん、レフリーのみなさん、「ラグビーが、複雑でなく前より単純に、難しくなく前より容易に思えるようになりましたか。」

もし、そうであれば「ラグビーがもっともっと面白くなるでしょう。」

もし、そうでなければ、「どこが間違っているのか考えてください。ラグビーを楽しむために大変重要なことです。」

間違いを考える場合には、照らし合わすべき正しい尺度・基準が必要です。それは競技規則(Laws)です。現在の競技規則は、ラグビー200年の歴史とプレー変遷のエキスが詰まっています。それを間違いなく守ればよいわけですが、その際に心がけるべきことを言葉にし文字にしたものがラグビー憲章(Playing Charter)です。

The History of the LawsのINTRODUCTIONに次のような一節があります。

In those days, and for many years after, the Laws were very brief. In 1855 one writer on football in Scotland started, It was not a bad game; the greatest beauty of it was that there were no rules",

これらの言葉は、ラグビー競技の根幹をなす精神であって、ラグビーを楽しむに当たって、我々はルールの下僕であってはならない、という自覚が大切であることを教えています。そのためには3つのルールの原理原則の理解が基礎になります。

1. EQUAL CONDITION 公平な条件・状態から
2. OPEN PLAY ボールの展開に努める
3. SAFETY 事故防止・危険なプレーはしない

不変の原則の線上、より面白いラグビーの創造されることが改正の目的です。

Playing Charterは、「ラグビーには、勇気、忠実心、スポーツマンシップ、規律、そしてチームワークといった多くの社会的・情緒的概念が包含されている。」と志向するところが明示されています。

ルールの原理・原則を理解していなかったり、競技するときの心構えが身につけていないままに、試合に勝つことだけを一生懸命考えていると、間違った方向へどんどんいってしまう恐れがあります。

ルールを生かすプレーの実際とレフリーの視点について考えましょう。

その1「捕まったらボールを放す」原点に返り厳守する。

ラグビーはボールを持って走る競技であって、相手側はそれを捕まえて止める活動を繰り返しながら前進して相手ゴールに到達しようとするものです。途中タックルがなされ身体が地面についてもパスか身体から離してボールを置くことによってプレーが継続するようにすることが要件です。

tackleとは捕まえて止めるという意味の英語で、倒す・倒れるということは付随する内容で、昔のルールでは倒れなくてもパスできない状態でタックルは成立し、ボールを放さなければならなかったのです。これはラグビー不変の原則であって、試合を有利に進めようとするプレーヤーの意図によりいろいろな活動がなされルールもそれを追うように変遷してきました。

レフリーはボールを放さないことへ厳格な判定を下さなくてはなりません。そうすることによって、サポートプレーヤーがボールに倒れ込んで有利にしようとすることも無くなり、ラグビーは立ってプレーするものだという原則常識が育つのです。倒れないで立ってプレーするという根本意識の育成と、実行努力の継続が必要です。

その2 継続プレーラックモールはスムーズ継続することが必須条件

ラックについては、タックルが成立してもパス (immediately) によってボールの停滞を無くし、身体から離れたところにボールを置く (押す) ことによって、ボールの拾い上げが容易になり展開が早くなります。

モールについては、防御法がなかったのですと永く続くことがありましたが、引き倒す (pull it down) ことによってスマザータックルのように防御することができます。ボールを持っていた人と捕まえた相手がモールの核であるべきモールが、ボールを持った人が一番後ろで数人の味方を前盾にして相手を押すというのはルール上問題もあり面白くない現象でした。

その3 再開プレーはロスタイムなく再開される

スクラムはボールの取り合うプレーであって、きっちり無駄な時間を費やさないことです。押し合いを有利にするための組み方を制御するのに無駄な時間が費やされています。

ボールを獲得した側が展開しようとしても、相手側がオフサイドラインぎりぎりに飛び出してくるので、ボールを獲得した側が元のボールのライン (ゲインライン) より後ろで捕まってしまう場合が普通となり、再開プレーによる展開継続という再開の効用を十分果たしていませんでした。

オフサイドラインがスクラム最後尾ラインより 5m 後ろということは、攻防接触ラインが殆どゲインラインに重なるようになるというものです。5m 後ろから出遅れを取り戻しできるだけ前で倒そうと飛び出すと相手の変化に対応できないので相手の動きを見てゲインライン上での防御を考えざるを得なくなります。攻撃側はスピーディに展開することによって間違いなく主導権を確保できます。

ラインアウトについては「高さで勝負がきまる」という原則は不変で、高さの頂点をどこにつくるかの争いです。位置取りやボールを受け取るプレーヤーについては、再開プレーによる展開継続の効用をたかめるものです。

レフリーは、継続プレーと再開プレーが、目的の通りに十分機能しているか確かめねばなりません。simple and easy な面白いラグビーの創造こそレフリーの責務でありやり甲斐というものです。そのためには、ルール改正の意図をよく理解し、それが具現されるように努めねばなりません。

BETTER RUGBY は第一章の第1項に、A Simple Game という標題を掲げて simple であることを強調しています。世界中の多くの人達がプレーするようになり、いろいろな考えやいろいろなプレーがなされるようになって、ルールもいろいろと改正されてきました。

残念ながらその方向は複雑化の一途でした。改正の目的は、simpler and easier です。そして more interesting です。

参照

- ・ [新しい競技規則 \(ELVs\)](#)
- ・ [新しい競技規則で3K ラグビー解決](#)

2008. 05. 25

西川 義行